

本部広報2020-023

2021年1月13日

“ベテラン”なら適切な行動ができるのか？ 「死角」に潜む危険に対する運転行動について 運転経験の差による違いを検証

JAF（一般社団法人日本自動車連盟 会長 藤井 一裕）は、20代～70代の運転経験の異なるドライバー3名にさまざまな交通場面を走行してもらい、目視やミラーでも確認できない「死角」に潜む危険に対する運転行動の違いを検証し、その結果をホームページに公開しました。

今回の実験ではドライバーにアイマークレコーダー（視線計測装置）を装着し、死角に潜む危険に対してどのように目で安全確認をしているのか、また危険を予測し適切に備えているのかを検証しました。



テストコース：合流時の死角



アイマークレコーダーで視線を計測

テスト：運転経験の差で安全確認や運転行動に違いはあるか？

▼テストドライバー

- ・モニターA：20代（免許取得1年未満）
- ・モニターB：70代（免許取得30年以上の経験豊富な高齢ドライバー）
- ・モニターC：40代（ゴールド免許のベテランドライバー）

▼テスト内容

モニターにアイマークレコーダー（視線計測装置）を装着し、下図のテストコースを3回走行しドライバーの目の動きや安全確認、運転行動を検証しました。



テストコース内に様々な交通場面を再現



①登り坂の死角



②合流時の死角



③右折時の死角



④停車車両による死角



⑤見通しの悪い交差点



⑥駐車時の死角

結果：運転経験の差から死角に潜む危険に対する行動に違いがあった

アイマークレコーダー（視線計測装置）や車載カメラの映像から、運転経験の差によって死角に潜む危険に対する運転行動に以下の通り違いがあることが分かりました。

▼モニターA（20代）



20代：合流時



合流時の死角の注意点

合流時の死角では、1台目の車が通過したのち死角を確認していましたが「後続車が来ないだろう」と思い込み、バイクが接近していましたが合流しようとしてしまいました。

▼モニターB（70代）



70代：停車車両の死角



停車車両の死角の注意点

停車車両（バス）の死角では、バスの死角を目視で確認し警戒していましたが、減速など備えていなかったため、急ブレーキでも停止することができませんでした。

▼モニターC（40代）



40代：駐車時の死角



駐車する様子

駐車時の死角ではサイドミラーや目視で死角を複数回確認しており、切り返しの際には動き出す前に周囲の安全を確認し、ムーズに駐車することができました。

運転経験の差と行動の違い

モニター	行動の違い
A (20代 女性)	運転は慎重だが、死角に潜む危険を十分に予測できず見落としや発見してからの行動が多かった。
B (70代 男性)	死角に潜む危険を知っているが、危険に対する行動が少なかった。
C (40代 男性)	死角に潜む危険を予測し、適切な備えと行動をとっていた。

こういった死角の危険に備えるためには、日ごろからさまざまな交通場面に応じて「危険を予測し、それに備えた行動」や「停止状態での安全確認」を続けて、危険な場面を知ることが重要です。

“安全”に危険な場面を覚え予測する能力を鍛える「危険予知トレーニング」などを活用し、さまざまな「危険な場面」を事前に理解し、実際の運転でも活かしましょう。

■テスト結果：JAFユーザーテスト

[資料編] https://jaf.or.jp/common/safety-drive/car-learning/user-test/blind_spot/blind_spot

[動画編] <http://movie.jaf.or.jp/details/243.html>

■「実写版」危険予知 事故回避トレーニング

<https://jaf.or.jp/common/safety-drive/online-training/risk-prediction>

一般社団法人 日本自動車連盟 広報部

Tel : 03(3578)4920 Fax : 03(3578)4912 Mail : koho@jaf.or.jp URL : https://jaf.or.jp/
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館